慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	M社製品開発プロセス効率化への一考察
Sub Title	
Author	三木康治(Miki, Kouji) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1723号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1723

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論 文 要 旨

所属ゼミ	河野研究室	学籍番号	80028869	氏名	三木　康治

（論文題名）

M社製品開発プロセス効率化への一考察

（内容の要旨）

筆者が所属している産業機械向け伝動・制御機器メーカーのM社では、現在、主力製品であるクラッチ・ブレーキの製品開発について様々な問題点が指摘されている。しかし、何が原因でどんな問題があるかといった具体的な議論になると統一的な見解は見られず、社内での原因分析も充分に行われているとは言えない。

こうした状況を受けて、本研究では、M社のクラッチ・ブレーキの製品開発における問題の構造化を図る為、同製品の開発関係者へのインタビューによる問題点のリストの作成と、当該製品開発プロセスを対象としたプロセスマップの作成と分析を試みた。その結果、顧客ニーズをフィードバックする営業部門と実際の製品開発を担う設計部門部門のコミュニケーションの欠如からくる不満や不信感が数多く生じていることが明らかになった。その一方で、営業・設計双方の現場では、これらの問題点をカバーする為に幾重にもチェック作業を設けており、更に非効率なプロセスを作り上げている事も判明した。

これらの分析結果を受けて、本研究では、M社がこのような実態を勘案し、営業・設計双方のコミュニケーションを促進する工夫とともに、効率的で整合性のある開発プロセスを構築することで製品開発パフォーマンス向上に結びつけるべきであることを提言している。